



きつね



えほんいろいろ No. 175

『きつねとたぬきのばけくらべ』

松谷 みよ子／ぶん ひらやま えいぞう／え
童心社 1989

むかし、きつねがたぬきにばけくらべをしようとしてがみをおくりました。きつねは、たぬきをだますためにおよめさんにばけます。おみやのまえにおいしそうなおまんじゅうがあり、きつねがたべようするととびはねます。まんじゅうはたぬきがばけたすがたでした。



『こんにちはあかぎつね!』

エリック・カール／さく
さの ようこ／やく
偕成社 1999



きょうはかえるのぼうやのたんじょうびです。パーティーには、おともだちをよびました。やってきたのはあかぎつね。でも、あかじゃなくてみどりいろです。びっくりしているかあさんがえるに、ぼうやはいいました。もっともっとみなきや!すると…。

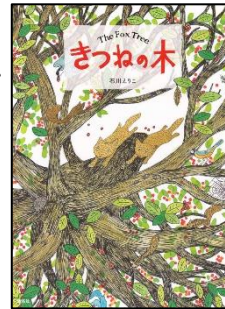


『きつねの木』

石川 えりこ／作
講談社 2025



こぎつねたちは、おおきな木のまわりでヒヨドリやノネズミたちといちにちじゅうあそびます。はなびらをおいかけて、おひるねをしたり、おおあめのひは木のしたであまやどり。やがておとなになったきつねたちはあたらしいおうちをさがしにでました。



『たろうめいじんのたからもの』

こいで やすこ／さく
福音館書店 2013



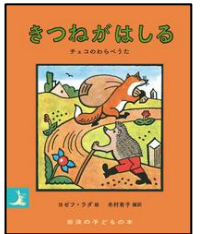
きつねのきつこは、みずあそびをしにいたちのちいとにいのところにきました。ふたりがくびからさげているきれいなみどりいろのいしは、うんとおよぎがうまくなるとたろうめいじんからもらえるそうです。およぎをおしえてもらうため、きつこはめいじんをさがしにいきます。



『きつねがはしる チェコのわらべうた』

ヨゼフ・ラダ／絵 木村 有子／編訳
岩波書店 2023

この本は、チェコのわらべうたをたのしむことができる1冊です。本のタイトルになっている「きつねがはしる」といううたにはふくろをもってまちへいくきつねと、それをおいかけるはりねずみがとうじょうします。なぜきつねをおいかけているのか、この本をよんでたしかめてみてください。



『パオアルのキツネたいじ』

蒲 松齡／原作 心 怡／再話
蔡 皋／絵 中 由美子／訳
徳間書店 2012



ばけギツネがいえへ入ってきたある夜から、パオアルのおかあさんのぐあいかわるくなりました。パオアルがよんでもへんじをせず、ないたりわらったりしています。パオアルはおかあさんをたすけようと、化けギツネにたちむかいました。

